

吉田城址で、池田輝政期の石垣が新たに発見されました！

豊橋市美術博物館では、吉田城址の保存と活用に向けた調査を継続して行っています。令和2年度には、石垣の三次元測量や、現存遺構の損傷等の状況把握を目的とした「石垣・土塁カルテ」の作成を進めています。

作業の中で落ち葉や腐葉土に埋もれていた石垣の清掃を行い、詳細な検討を進めた結果、これまで知られていなかった、吉田城址最古の池田輝政期（1590～1600）の石垣が残されていることが確認されました。



上：石垣の位置

左：確認された石垣（詳細は裏面参照）

●ポイント

①池田輝政期に、複数の高石垣が築かれていたことが判明

従来、池田期の石垣は鉄櫓下のみで確認されており、石垣が用いられた範囲や規模は不明でした。今回の発見で、城郭の主要部にあたる複数の場所で、当時の最先端技術で築かれた「高石垣」が用いられていたことが判明しました。

②場所により、石材の使い分けを行っていたことが判明

城のシンボルであり、最も目立つ場所である鉄櫓台の石垣には大きな石材を用いていますが、今回発見された石垣では小さな石材を利用しています。城郭の目立つ位置に、立派な石材を用いる意識があったものと考えられます。

●滋賀県立大学 中井 均教授（城館考古学）のコメント

戦国時代末期には全国的に多くの城郭が築かれ、時代により石垣の積み方や種類、石材の大きさ、加工技術は次第に変化していく。各地の石垣は江戸時代以降に積み直されていくが、今回、吉田城址ではこれまで知られていなかった、安土桃山時代の遺構の存在が明らかとなった。石垣構築技法の変遷を検討する上で、全国的にも貴重な事例と言える。長い年月を経て損傷が進んでいる遺構も多いため、しっかり保護と整備を進めて欲しい。



●今回発見された石垣

【時代】池田輝政が吉田城主となり、大改修を実施した天正18年（1590）に築かれたと考えられます。

【規模】高さ約5.7m、幅約13.8mを測る高石垣です。埋没部分を考慮すれば、実際はより大きな規模であったと考えられます。「高石垣」とは、当時の最先端技術で築かれた高さ5mを超える大規模な石垣で、吉田城ではこの技術が積極的に導入されていたことが判明しました。

【構造】チャートを中心に、自然石を巧みに組み合わせて石垣を築く、「野面乱積み」という技法が用いられています。

【その他】破線部より内側では、江戸時代の積み直し痕跡が良く観察できます。

*池田輝政：豊臣秀吉や徳川家康の重臣で、江戸時代には播磨国（兵庫県）で世界遺産・姫路城を築いたことで有名。父は織田信長の乳兄弟である池田恒興、正室は徳川家康の次女である督姫。なお、一般に「輝政」の名で知られるが、吉田城主時代は「照政」と名乗っている。

●現地での取材対応について

本日の市長定例記者会見の終了後に、希望される報道機関には現地の案内及び解説等を実施します。また、12月4日（金）まで、個別の取材に対応しますので、下記までご連絡ください。

【連絡先】440-0897

豊橋市松葉町三丁目1

TEL：0532-56-6060

担当：豊橋市文化財センター 学芸員 中川 永（ひさし）